

妖怪横丁にお・邪・魔！

ハイチーズ！



庄原みるくの会(会長 市川美智子)は、会員とその家族十三名が参加して、鳥取県境港市への親睦旅行を楽しみました。

この旅行、当初七月での開催を計画されていたが、西日本豪雨災害の影響から、やむなく順延とされていた。

参加者らは、境港での水産直売施設「大漁市場なかうら」で美味しい蟹料理を満喫。この市場では日本一大きいとされる「鬼太郎像」がそびえ立ち、多くの観

大きいね～！



(巨大な鬼太郎を前に写真撮影)

光客が見上げるようにして、その大きさに驚かされていた。その後は、水木しげるロードを散策。多くの妖怪ブロンズ像に出迎えて貰い、童心に帰っての会話と散策を楽しんでいた。天候にも恵まれて、過ごし易い穏やかな気候の中で、移動中のバスでは紅葉景色も見ることができ、皆さん大満足の親睦旅行となった。

今なぜ「八天堂」？

その謎を解明！！

おいそ～！



(説明に聞きいる参加者)

西部ミルク会(会長 東方田博子)は、「八天堂のクリームパンが何故、急上昇したのか?」「工場見学がどうして人気なのか?」とのモヤモヤを解消するため、会員九名が八天堂・三原臨空工場を見学した。調査団は、広島エアポートホテルで昼食をとって腹ごしらえをした後、調査現場に向かった。工場見学

と説明を聞いて、「これが八天堂の人気の秘密だ」と、その原因を突き止め、スッキリして工場を後にした。帰りの道中では、同工場で作られるクリームパンの人気は「社員皆さんの笑顔」と「手作りにこだわる経営方針」にあるとみんなであうなずきつつも、悩みが解消できたとあって、気分爽快の満足旅行となった。

人も牛も後継者不足が悩み

「元気な子牛育成」を学び・交流

第二十五回賀茂地域畜産研修交流会



これからは
若い人に...

賀茂地域酪農団体連絡協議会（会長 檜垣義雄）は、第二十五回目となる賀茂地域畜産研修交流会を開催した。出席者は関係機関を含め二十七名。

開会にあたって、檜垣会長は「当協議会の発足から三十年が経過し、酪農家戸数が減少する中であって、これからは若い人に引継ぎを頂きたい思いはあるが、後継者を育てることは大変難しく、今後の農業の在り方を考えていく必要がある。去る十月二十三日開催の広島県畜産共進会では、当地区からの出品牛四頭、全てが優秀賞という成績を修められたことは、今後の励み

になる。」と後継者育成への課題と期待を交え挨拶された。

来賓として出席した鈴木道弘代表理事専務（広酪）は、今年七月の豪雨災害によって甚大な被害に遭った山陽乳業（株）の現状報告に加え、十一月からは学乳供給を再開、十二月から来年にかけて順次、ヨーグルト等の製造再開を報告。県内では、大手乳業工場の牛乳製造撤退が続く昨今にあって、残る乳業メーカーには頑張ってもらいたいとの思いはあるが、県内の生乳生産量は減少傾向から、県内酪農家の主体は家族経営にあるとして、十一月十四日には日本酪農政治連盟

による決起大会が東京で開催されたが、これらが家族酪農経営の支援策と要求乳価1kgあたり七円以上の引き上げの運動の助力になることへの期待感を述べた。

研修会では、広島県農業共済組合東広島診療所家畜



キーワードは
“免疫力”



（黒瀬獣医師）

臨牀研修所の黒瀬智泰獣医師を講師に招き、「元気な子牛を育成するための疾病予防」を学んだ。

黒瀬獣医師は、診療時によく聞く言葉に「何が原因か分からないが元気が無い」といったことをきっかけに、キーワードを「免疫力」として、①母牛の飼養管理による「胎生期の栄養状態」、②母乳性下痢防止のための「下痢予防ワクチン」の接種と初乳の適切な給与、③免疫細胞数が安定し下痢の発症数を減少させるための「代用乳の適正な給与量」、④子牛のストレス除去のための「飼養環境の改善」、⑤子牛への早期粗飼料給与による胃壁損傷からの胃炎、胃潰瘍の発症による下痢の五項目に分けて説明された。最後に、子牛の「腸内環境を整えて免疫力を高め、腸内環境の安定化を図ることが重要と強調され、腸は「最大の免疫器官」と再認識させられる講演であった。

その後は、広酪監事の森下政憲監事の乾杯発声で交流会へと移り、互いの近況や子供・孫の話で盛り上がり、和気あいあいと交流を深められた。

11月13日 トムミルクファーム

繁殖管理を学ぶ

庄原市酪農連絡協議会（会長 向田康浩）は研修会を開催し、会員をはじめ庄原市の田原主事、藏崎哲治課長（広酪生産振興課）を含めた九名が参加した。

テーマは「乳牛の繁殖管理の向上」。上之郷祐実獣医師（NOSA I 広島庄原家畜診療所）から、繁殖障害における対策と治療方法、栄養状態の確認や栄養管理等に触れて、乳用牛の繁殖管理の向上への注意事項や技術提供を受けた。

また、広酪からは藏崎哲治課長が酪農情勢の情報提供を行った。

東部管内青年部・西部楽酪会

十一月二十一日 たかみや湯の森

東部・西部の若人の集い 地域を超えた県域交流

東部管内青年部(部長 藤井康浩)と西部楽酪会(会長 吉川栄樹)は、地域間交流として、第七回目を数える交流会を開催し、双方地域から八名、全酪連一名、広酪から加藤祐一主任(経営支援課)の十八名が情報交換と親睦を深められた。

開会にあたり、双方地域代表の藤井部長と吉川会長が挨拶し、加藤主任からは、広酪TMR20WCSの商品紹介を行った後、互いの交流を深められた。

一年ぶりの再会とあって、久しぶりの対面に話題は尽きず、時間の経過も忘れて熱弁が練り広げられた。

閉会挨拶では、西部楽酪会の山尾稔之副会長から、次回再会を祈願して、一本締めで交流会を閉じた。



三原市酪農振興会・世羅郡酪農振興協議会

十一月二十九日 白竜湖リゾート

冬季に備え「出生直後の子牛管理」を学ぶ 三原・世羅合同研修・親睦会

三原市酪農振興会(会長 新舎和久)と世羅郡酪農振興協議会(会長 内海利彦)は、合同研修会と年末親睦会を開催し、会員他十六名が参加された。広酪からは、岩竹重城組合



長の他、鈴木道弘専務、上富士課長補佐(経営支援課)が出席した。

研修会は、「出生直後の子牛の寒冷・防寒対策」と題して、全酪連三次駐在員事務所

の浴槽に入れて身体を洗い落とし、②おぼれないように注意、③新しいお湯を入れ替え、④三回繰り返し、⑤大きな声で鳴き始めれば復活のサインで子牛の完全復活との説明に参加者は聞き入っていた。

来賓の鈴木専務は、十一月十四日に東京で開催された「家族型酪農危機突破!全酪農民総決起大会」に九名が参加し、この場で西日本地区代表として和田慎吾氏が国に要請の件や乳成分・衛生的乳質格差金のテーブル案の検討、生乳廃棄事故防止等、酪農情勢を説明した。

続いて、岩竹組合長(広酪)からは、山陽乳業(株)は西日本豪雨災害を経て十一月からは学校給食用牛乳を再開、更には十二月から牛乳一リ、五百ml、ヨーグルトの製造販売再開予定と復興状況を説明し、会員には、生乳生産状況の報告と共に「生乳をより多く出荷して欲しい」とお願いした。

新舎会長からは「今年一年の嫌なことは忘れて、来年は良い年になるように頑張ります」と挨拶され、会員間での情報交換と懇親を深められた。

木梨憲武展を觀賞

発想の展開を酪農にも！



夏には、瀬戸内海へ！

双楽会(会長 檜高一則)は、恒例のグラウンドゴルフ大会の開催を予定していたが、あいにくの雨天によって急遽、奥田元宋・小由女美術館で、タレント「とんねるず」として活躍する一方、アトリエを持ち、画家としても活躍する木梨憲武氏の美術展を鑑賞した。参加

者は会員の他十八名。広酪からは東野智志技師(経営支援課)と寺道弘生職員(生産振興課)が参加した。鑑賞した檜高会長は「奇抜な発想に驚いた。この発想の転換をぜひ酪農経営に生かしたい」。中田幸子さんは「独創的作品で生まれた感性が素晴らしい。特に鳥の絵は良いですね」と感想が述べられ、皆さん興味深く觀賞されていた。

その後は会場を広島三次ワイナリーに移しての懇親会を開催した。ここでは、地元選出の温泉川寛明理事(広酪)から、最近の酪農情勢や中国生乳販連で検討が進む「乳成分や乳質格差金テーブル」の統一化、来年度の乳価交渉等の状況報告が行われた。参加者は、日頃の飼養管理の話題や、「身体のおちらこちらが痛いよねえ」等の会話を弾ませながらも、元気に笑い飛ばされていた。

来年の旅行計画も様々な提案意見が持ち上がり、「夏に瀬戸内海でもう一度釣り堀に行こう」と話が纏められた。

”ときめき隊”の活動 わいわい♪キャッキョウ 庄原市に出かけて 「チーズが出来るまで☆」の巻



♡はじまり・はじまり

酪農業界を背負う若い世代の女性達の呼びかけで発足した「ときめき隊」も平成25年11月の発足から5年が過ぎ、毎年開催する見学交流会が定着して参加者の輪も広がっております。

12月4日には、「チーズが出来るまで」と題した見学交流会を開催し、15名が参加されました。

TMR20WCS」と自給粗飼料、配合飼料の3つを給与するのみで、シンプル・イズ・ベストの管理方法にあって、労力軽減と乳飼費の抑制が図られており経営収支は良い」と紹介され、参加者からは、「自らの酪農経営にも取り入れるようになってみたい」などの意見もありました。

また、牧場で説明にあたる岩竹組合長は、普段の背広姿とは異なり酪農家として作業着(つなぎ)に身を包まれる姿に親しみを感じたとの感想も聞かれました。

♡第二幕 チーズ工房をお訪ね

岩竹牧場を後にして、(株)敷信村農吉(しのうむらのうきち)直営のチーズ工房「乳いーずの物語」を見学されました。

ここで製造されたチーズは、今年10月に(一社)中央酪農会議主催の国産チーズのコンテスト「JAPAN CHEESE AWARDS 2018」に「カチョカヴァロ」を出品され見事金賞受賞に輝かれており、頑張っておられる姿に共感されておりました。

♡第一幕 チーズ原料乳の生乳生産現場

岩竹牧場をお訪ね

最初にチーズの原料乳を生産される岩竹牧場(代表 岩竹重城:広酪組合長)を訪問され、飼養管理の特徴の説明を聞かれました。

岩竹組合長は、「自らの搾乳牛の飼養管理の特徴は、広酪が飼料用稲(WCS)を原料に製造供給する商品「広酪

♡第三幕 ライブもやる峠の食堂「すけあくろう」で食事会

ハンバーグ等がおいしい「すけあくろう」で食事会。わいわい♪キャッキョウのひとときを過ごされました。この会をきっかけに、参加者皆さんの士気が高まったそうです。良かった、よかった。

おわり(。>▽<)b